

全国学力・学習状況調査 本年度正答率

| | 国語A | 国語B |
|-----|------|------|
| 本校 | 76 | 60 |
| 広島県 | 73 | 59 |
| 全国 | 70.7 | 54.7 |

本年度の結果について

○取組の成果と課題

昨年度の調査結果から、①目的に応じ、内容の中心を明確にして詳しく書くこと②物語を読み、具体的な叙述をもとに理由を明確にして自分の考えをまとめることに課題があった。そこで、教科書教材と関連資料とのつながり（単元を貫く言語活動）を意識して授業を仕組み、図書室を利用しながら読んだり、書いたりする活動に全学年取り組んでいった。また、帯タイムにおいては、全学年共通の読解集に取り組んだ。その結果、書くことでは無答率が減り、自分の考えを何かしら書こうとする意欲は高まっている。しかし、今年度の課題からも、その力はまだ十分身に付いているとは言えない。

○今年度の調査から新たに明らかになった課題

- ・話し手の意図を捉えながら聞き、自分の意見と比べるなどして考えをまとめる。(33.3%県より5.8ポイント低い。)
- ・目的や意図に応じ、内容の中心を明確にして詳しく書く。(20.8%県より1.9ポイント高いが、正答率が低い。)

重点課題

○話の内容を聞き取ったり、読んだりした際に自分の考えと比べ、共通点や相違点、関連して考えたことなどを整理し、自分の考えを書く力を付ける。
○複数の資料から情報を読み取り、必要な情報を目的に沿って取り出す力を付ける。
修正

標準学力調査に向けた重点取組

- ・全教職員で「躰きは宝物」と捉え、通過率の低い問題の誤答分析（なぜ×なのかにこだわって）から、2学期からの授業改善の手立てのポイントを共有化する。
- ・国語科では、「日常がすべて授業」を意識し、教師が主語と述語を意識しながら正しい言葉遣いをしていく。
- ・「読む」活動の活性化を図る。そのために、2学期から主に2つの取組を実施する。①2学期からの学習で、学校図書館を活用した計画を見直し、授業実施計画を立てて全学年取り組む。②全校一斉朝読書の時間において、学期に1回ペア読書の日と担任と担任外による読み聞かせの日を設ける。
- ・「書く」活動の活性化を図る。そのために、2学期から授業、授業外において、次のことに重点を置いて取り組んでいく。授業においては、説明的文章や物語文の指導にあたって、初読で、条件（文字数、○段落で）を付けて、どんなお話だったのか、それに対する自分の感想、筆者は、何を伝えたかったのか、それに対する自分の考え等の内容を学年に応じて書かせる。また、学校図書館を活用した「読む」活動との関連を図っていく。授業外においては、チャレンジタイムで週1回「書く」問題に取り組ませる。また、家庭学習としてテーマ日記を月2回は出して、条件（文字数、○段落で、理由を2つ入れて等）を付けて取り組ませる。さらに、作品応募にも積極的に取り組み、「愛の健康便り」「おいお茶俳句大会」に全校で応募するとともに「校内俳句大会」も実施していく。

取組計画表

| | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | |
|---------------|--|---|-----|--|---|--|----|---|---|
| 校内研修等 (職員) | <ul style="list-style-type: none"> ・全職員で問題を解き、通過率の低かった問題の誤答分析を行い、授業改善の手立てのポイントを共有する。 ・学校図書館を活用した授業実施計画を立てる。(全学年) ・朝読書や書く活動の取組の見直しと計画を立てて、2学期から全教職員で取り組む内容を共有する。(担当) | <ul style="list-style-type: none"> ・改善計画を周知し、2学期から全教職員で取り組む内容を共有する。(担当) | | | <ul style="list-style-type: none"> ・2学期単元末テストの結果から、3学期の取組内容を共有する。(担当) | | | | <ul style="list-style-type: none"> ・来年度の取組の方向性を全教職員で確認する。 |
| 児童への取組 | <ul style="list-style-type: none"> ・朝読書や書く活動の取組の見直しと計画を立てて、2学期から全教職員で取り組む内容を共有する。(担当) ・標準学力調査に向けた取組を計画し、全教職員に周知する。(担当) | <ul style="list-style-type: none"> ・「愛の健康便り」を帯タイムの時間に書く。(2～6年) ・全国学力調査の答え合わせと解説(6年) | | <ul style="list-style-type: none"> ・「校内漢字検定テスト」実施(全学年100%こなるまで取り組む) 【検証】検証テスト 目標値 全学年80%以上 | <ul style="list-style-type: none"> ・「おいお茶俳句大会」に向けて俳句を書く。(全学年) 単元末テスト 目標値 全学年全国平均値より1ポイント以上アップ | <ul style="list-style-type: none"> ・「校内新春俳句大会」に向けて俳句を書く。(全学年) 【検証】標準学力調査 目標値 前学年、前年度数値より1ポイント以上アップ | | <ul style="list-style-type: none"> 【E30】全国学力学習状況調査 5学年 | <ul style="list-style-type: none"> 単元末テスト 目標値 全学年全国平均値より1ポイント以上アップ |

標準学力調査に向けた学級と個の実態の分析を行い、単元の見直しと個への取組を実施

授業改善(学校図書館の活用、読書活動の充実、作文指導の実施)

記述問題、読解問題への取組(帯タイム、家庭学習など)

全国学力・学習状況調査 本年度正答率

| | 算数A | 算数B |
|-----|------|------|
| 本校 | 69 | 59 |
| 広島県 | 66 | 54 |
| 全国 | 63.5 | 51.5 |

本年度の結果について

○取組の成果と課題

昨年度の調査結果から、①数の関係に着目して、示された方法を問題場面に適応して考えること②基準量と割合をもとに、比較量を判断してその理由を記述することに課題があった。そこで、めあてとまとめにこだわった授業を仕組むとともに、文章、式、図を関連付けて自分の考えを書く時間を十分とり、協働学習では話題を明確にし自分の考えを説明する活動を大切にしてきた。また、帯タイムにおいては、全学年共通の思考力問題集に取り組んだ。その結果、問題に取り組み、答えを導き出そうと考え根拠を書こうとする児童が増えた。しかし、数量関係、数学的な考え方に依然として課題が見られる。

○今年度の調査から新たに明らかになった課題

- ・除法で表すことができる二つの数量の関係を理解している。(56.3%県より6.3ポイント低い)
- ・メモの情報とグラフを関連付け、総数や変化に着目していることを解釈し、それを記述する。(22.9%県より1ポイント低い)

重点課題

- 読み取ったことを比較・関連させながら、必要な事項を落とさず算数用語を用いながら説明する力を付ける。
- 複数の資料から情報を読み取り、必要な情報を目的に沿って取り出す力を付ける。

標準学力調査に向けた重点取組

- ・全教職員で「躰きは宝物」と捉え、通過率の低い問題の誤答分析（なぜ×なのか）にこだわって、2学期からの授業改善の手立てのポイントを共有化する。
- ・算数科では、「日常場面といかにつながるか」を意識し、教師自身が身の回りの物に算数的な要素を見出し楽しむことができる目を持っていく。(教師自身の見方、考え方を高めていく)
- ・自分の言葉で自分の考えや思いを書かせることを大切にする。そのために、理想とする説明モデルを教師が書き、それを児童が写すことから訓練する。
- ・振り返りの充実を図る。今日の学びを自分の言葉で文章化させる。その際、本時のキーワードを必ず入れたり、数学的な表現力を入れたりしているかを見取り、評価をしていく。
- ・日常から入って、日常にかえる指導を意識して行う。
- ・なぜその判断をしているのか根拠を考え説明することを大切にし、意味・本質理解を図っていく。
- ・めあてとまとめにこだわった授業展開を行っていく。
- ・低学年から、順序よく図に表す活動を取り入れ、いつ、どこで図を扱うと効果的なのかを考えて授業を仕組む。
- ・誤答を大事に扱うとともに、表現の置き換え（図を言語に、式を図になど）や関連付けを促していく。

取組計画表

| | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 |
|---------------|--|--|-----|--|---|--|---|---|
| 校内研修等 (職員) | <ul style="list-style-type: none"> ・全職員で問題を解き、通過率の低かった問題の誤答分析を行い、授業改善の手立てのポイントを共有する。 ・広島大学 松浦武人先生による算数科の理論、実践研修を受ける。 | <ul style="list-style-type: none"> ・改善計画を周知し、2学期から全教職員で取り組む内容を共有する。(担当) | | | | | | |
| 児童への取組 | <ul style="list-style-type: none"> ・1学期単元末テスト結果から、2学期帯タイムの児童編成の見直しと周知(担当) ・標準学力調査に向けた取組を計画し、全教職員に周知する。(担当) | <ul style="list-style-type: none"> ・全国学力調査の答え合わせと解説(6年) | | <ul style="list-style-type: none"> ・「校内算数検定テスト」実施(全学年100%になるまで取り組む) 【検証】検証テスト 目標値 全学年80%以上 | <ul style="list-style-type: none"> 単元末テスト 目標値 全学年全国平均値より1ポイント以上アップ | <ul style="list-style-type: none"> 【検証】標準学力調査 目標値 前学年、前年度数値より1ポイント以上アップ | <ul style="list-style-type: none"> 【B30】全国学力学習状況調査 5学年 | <ul style="list-style-type: none"> 単元末テスト 目標値 全学年全国平均値より1ポイント以上アップ |

標準学力調査の分析を行い、単元の見直しと個への取組を実施

標準学力調査に向けた学級と個の実態の分析を行い、単元の見直しと個への取組を実施

授業改善(めあてとまとめの具体化、話題の一貫性、思考を大切に振り返り確認問題)

記述問題、思考問題への取組(帯タイム、家庭学習など)

全国学力・学習状況調査 本年度正答率

| | 理科 |
|-----|------|
| 本校 | 66 |
| 広島県 | 63 |
| 全国 | 60.3 |

本年度の結果について

○取り組みの成果と課題
 昨年度の各種学力調査結果から、①「空気てっぽうの前玉が飛ぶ理由を適切に表現すること」、②「仮説に基づいた実験結果を表現すること」に課題があった。そこで①については、授業の実験方法を考える場面で、自分の仮説を確かめるためにはどのような実験をすればよいのか考える場面を持った。②については、課題から自分の仮説を立て、実験方法を考えたり、実験結果を予想したりする場を持たせ、それをどのように表現すればよいか指導した。その結果、どのように実験するかを考え、表現することができるようになってきている。しかし、実験結果を適切に表現することには課題が残っている。

○今年度の調査から新たに明らかになった課題

- ・食塩を水に溶かした時の全体の重さについて考えること。(正答率41.7% 県平均より1.8ポイント高いが、正答率が低い)
- ・腕が曲がる仕組みについて、模型を使って説明すること。(正答率41.7% 県平均より19.1ポイント低い)
- ・実験結果をもとに分析して考察すること。

重点課題

- 「物を溶かしても全体の重さは変わらない」ということを、食塩を溶かして体積が増えた食塩水に適用させる力を付ける。
- 人の腕が曲がる仕組みを模型に適用する力を付ける。
- 実験結果をもとに分析し、考察したり問題に正対したまとめへ改善したりする力。

標準学力調査に向けた重点取組

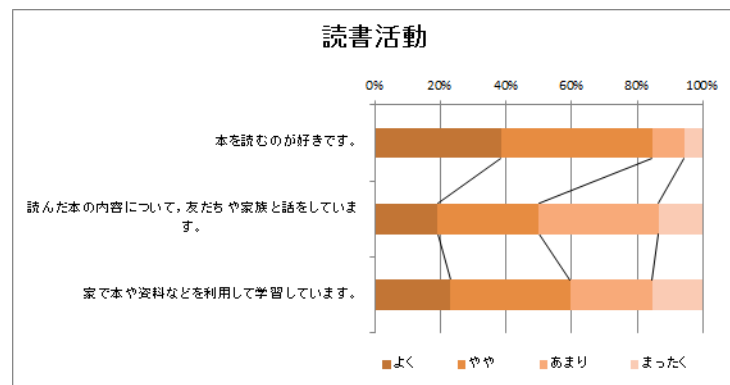
- ・全教職員で「躰きは宝物」と捉え、通過率の低い問題の誤答分析(なぜ×なのか)にこだわって)から、2学期からの授業改善の手立てのポイントを共有化する。
- ・授業の中で課題の設定、仮説を立てる、実験方法を考える、結果を予想する、実験する、結果から考察する場を設ける。
- ・実験に臨む際には、何を調べるために実験を行うのかを明らかにし、目的意識を持って実験に取り組ませる。
- ・考察する際には、課題や仮説に立ち返るなどして、どのように表現すると良いか指導する。
- ・振り返りプリントなどを活用し、習熟度の低かった単元の学び直しをする場を設ける。
- ・1つの結果だけで事象を一般化せず、帰納的な考え方をさせる。

取組計画表

| | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 |
|-----------|--------------------------------|--|-----|-------------------------------|------------------------------------|---|--------------------|----------------------------------|
| 校内研修等(職員) | ・全職員で問題を解き、通過率の低かった問題の誤答分析を行う。 | ・改善計画を周知し、2学期からの取り組む内容を共有する。 ・検証テストの内容検討。 | | | ・2学期単元末テストの結果から、3学期の取組内容を共有する。(担当) | | | ・来年度の取り組みの方向性を全職員で確認する。 |
| 児童への取組 | | ・全国学力調査の答え合わせと解説。(担当) | | 【検証】検証テスト 目標値 前学年 80%以上 | 単元末テスト 目標値 前学年全国平均値より1ポイントアップ | 【検証】標準学力調査 目標値 前学年、前年度数値より1ポイント以上アップ | H30全国学力学習調査 5年生 | 単元末テスト 目標値 前学年全国平均値より1ポイントアップ |

質問紙調査（「基礎・基本」定着状況調査：児童質問紙調査）

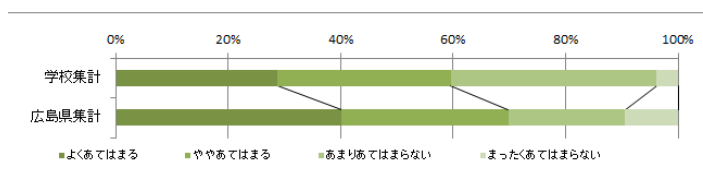
（1）生活・学習



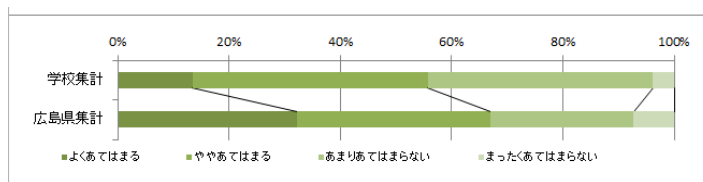
| 児童生徒の回答についての課題（現状値） | 今後の具体的な取組の内容 | 学年 | 目標値 | 検証方法 | 検証時期 | 実施数値 | 現状からの伸び |
|---|--|----|-------|---------------|------|------|---------|
| <ul style="list-style-type: none"> 読書活動「読んだ本の内容について、友だちや家族と話をしています」（50%） 朝読書の時間や家庭読書の宿題などは設けているが、読んだ本について話し合う場合は、積極的に設けていないことが要因の一つである。 | <ul style="list-style-type: none"> 朝の会の日直スピーチなどで、「読んだ本の紹介」とテーマを決め、交流する場を設けていく。 家庭読書においては、家族の人に伝え、家族の人から感想をもらうなど、宿題の工夫を図っていく。 2学期から朝読書の時間に、月1回ペア読書の時間や担任や担任外の読み語りの場を設けていく。 | 5 | 70%以上 | 児童アンケートを実施する。 | 2学期中 | | |

（2）教科

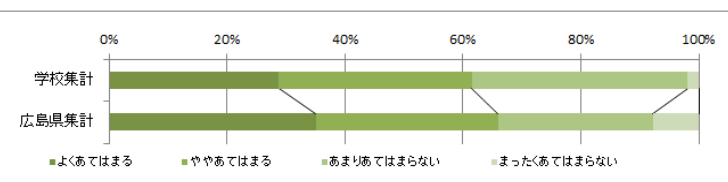
国語の授業では、分からない言葉や漢字は、辞書を使って調べています。



算数の授業では、とき方や考え方を話し合うときに理由をあげて説明しています。



理科の授業では、自分の考えをまわりの人に説明したり発表したりしています。



| | 児童の回答についての課題（現状値） | 授業改善の方向性や具体的な取組 | 学年 | 目標値 | 検証方法 | 検証時期 | 実施数値 | 現状からの伸び |
|----|---|---|----|-------|---------------|------|------|---------|
| 国語 | <ul style="list-style-type: none"> 「国語の授業では、分からない言葉や漢字は、辞書を使って調べています」（59.6%） 聞いて調べることはあっても、辞書を引いて自分で調べるという習慣は十分身に付いていない。 | <ul style="list-style-type: none"> 3年生から辞書を教室に置く。 新出漢字を学習する際は、辞書も活用していく。 国語の学習の予習などで、言葉の意味調べをしたり、読めない漢字を調べたりさせる。 | 5 | 70%以上 | 児童アンケートを実施する。 | 2学期中 | | |
| 算数 | <ul style="list-style-type: none"> 「算数の授業では、とき方や考え方を話し合うときに理由をあげて説明しています」（55.8%） 自分の考えをノートに書くことはできていても、積極的に挙手し相手に伝えようとする児童は少ない。 | <ul style="list-style-type: none"> 話し合いの視点を明確にした協働学習を大切にして交流し合う中で、自分の考えに自信を持たせ集団解決へつなげていく。 分からないことは「分からない。」とすることができること、間違いから学びが深まるということを大切に温かい学級集団づくりをしていく。 自力解決の際、机上指導を行い、ノートに黙って○や線を引く。 個に応じて、ノートにコメントを書いたり、声かけをしたりして自信を持たせていく。 | 5 | 70%以上 | 児童アンケートを実施する。 | 2学期中 | | |
| 理科 | <ul style="list-style-type: none"> 「理科の授業では、自分の考えをまわりの人に説明したり発表したりしています」（61.5%） 算数の結果と同様、「伝える」ということに抵抗のある児童が多い。 | <ul style="list-style-type: none"> 授業の中で、課題の設定、仮説を立てる、実験方法を考える、結果を予想する、実験する、結果から考察するという過程を大切にし、考えを伝え合う。 何を調べるために実験を行うのかを明らかにし、目的意識を持たせ、積極的に実験に参加できるようにする。 班での話し合いや、ペアトークを取り入れていく。 | 5 | 70%以上 | 児童アンケートを実施する。 | 2学期中 | | |